別紙

令和８年度校区まちづくり交付金　交付決定助言書
【南高安小学校区まちづくり協議会】

〔交付決定にかかる条件〕

※下記に記載の〔交付決定にかかる条件〕については、年度内の活動の中で実践や実施に向けた検討を進めてください。その実績や検討状況については、実績報告書に記載いただき、ご報告ください。

・チャレンジメニュー①：1-③地域ぐるみの登下校の見守り

　各種委員やボランティアだけでなく、保護者層も巻き込み、参加しやすいより広がりのある活動となるような工夫についてご検討ください。

・チャレンジメニュー②：2-③団体に属さない人の参画促進

　歴史に関心のある方に限らず、可能であれば、地域活動に関心のある方へのアプローチや暮らしの困りごとを抱える方など、さまざまな住民の声を聴く仕組みや、参画を促すアプローチ方法についても検討しながら進めてみてください。

・チャレンジメニュー⑤：3-③若い担い手確保・参画促進

　大学生の参加は有意義です。一方で、大人が提供する活動にとどまらず、大学生等が企画・運営に主体的に関わる機会づくりについてもご検討ください。

・取り組み名称⑤：美化作業

　8 月実施は酷暑期での活動となり熱中症のリスクが高いと考えられます。楽しい要素を取り入れたイベントと共催するなど、多様な層が参加しやすくなる工夫についてご検討ください。

・取り組み名称⑥：AED の使用方法の周知活動

　参加予定人数について、目標や具体的な数値を設定できないかご検討ください。また、過去の取り組みからどれだけの方が使用できるようになったかの実績把握が可能かについてもあわせてご検討ください。

・取り組み名称⑪：住民講演会（健康）

　住民健診の受診促進につなげるためにも、事後に受診率向上につながったかの実態把握が可能かご検討ください。また、講演会だけでなく、参加者の健康意識の変化などをアンケート等で収集してみてはいかがでしょうか。これにより次年度の関心喚起や参加層拡大につながるデータが得られます。

・取り組み名称⑫：青少年育成活動（縁日）、⑬：青少年育成活動（やきいもまつり）、⑭：青少年育成活動（こどもまつり）、

　青少年育成活動全般について、参加した子どもたちの声を聴くためのアンケート実施をご検

討ください。地域について感じていることや課題、あったらよいと思うことなどを聞くことで、地域への関心をもつきっかけの場となるようご検討ください。

・取り組み名称⑮：世代間交流活動（ふれあい果樹園）
　参加時にアンケートを実施する等で地域の関心や困りごとを把握する機会づくりにつなげられないかご検討ください。

・取り組み名称⑯：情報発信事業
　情報発信により認知度向上や新たな担い手発掘につながったかどうか、効果測定の実施やその手法についてご検討ください。

〔今後の活動にかかる助言〕

※下記に記載の〔今後の活動にかかる助言〕については、まち協活動でご活用ください。こちらの項目については、実績報告の際の実施状況等のご報告は不要です。

　一部、過去にお渡しさせていただいている助言シートと同内容の助言も掲載しております。振り返りの意味も込めてあらためてご確認ください。

・取り組み名称③防災活動について、地区防災計画の概要版の周知のみでなく、具体的な訓練や防災イベントと組み合わせることで行動喚起を図ることが必要です。地域住民の迅速な自助避難を促すためにどのようなステップが必要か、自助避難の行動につながる取り組み内容についてご検討ください。
・子育て世代を地域の担い手として取り込むことについて（まち協活動への参加促進）
　子どもを中心としたイベント実施の際、QR コードを付したスマホで答えられるアンケートを用意し、担い手としての参加意向を訊いてみることをご検討ください。
・テーマを設定し、無作為抽出方式で対話の場をデザインすることもご検討ください。その際は ICT ツールや Zoom 等を活用し、参加しやすい環境を整えるとよいでしょう。
・NPO、市民活動団体との連携
　農地が多く山も地域資源としてあることは校区の大きな資源です。校区内住民だけでなく、校区外のヨソモノ向けのイベントも企画することで、南高安ファンを増やしていっていただきたいです。（NPO などとの連携で実現している事例：https://seikatsuclub.coop/news/detail.html?NTC=0000053098 参照）。
・情報発信の強化について
　校区内で SNS などに精通している人を発掘していく手はあります。見えていないだけで、意外とそういう方は存在していますので、市民活動ネットワークセンター「つどい」にも相談しながら進めてみてください。あわせて、取り組みがかたちだけで終わらないように、SNS を使いこなせるようにする講習会も大切です。次の事例も参考にしてください。＜静岡県静岡市清水区・清水岡地区堂林自治会の取り組みや八尾小校区まちづくり協議会の広報力向上研修など＞

別紙

・事業数が多く計画されている一方で、それぞれの取り組みが地域のつながりづくりにどのようにつながっていくのかという全体像がやや見えにくい印象を受けました。各事業に参加した方がどのように増え、どのような形で地域の人とつながり、さらに地域活動に関わっていくようになるのか、といった参加から関わりへとつながるロードマップを描いていくことが重要ではないかと思います。
その視点が整理されることで、単に事業を実施するだけでなく、地域のつながりや担い手づくりにどう結びつくのかを意識した事業設計がしやすくなるのではないでしょうか。

・事業内容を見ると、高齢者や子どもを対象とした取り組みが多い印象がありました。こうした活動はとても大切ですが、あわせて地域の保護者や子育て家庭の困りごと、日々の暮らしの中で感じている課題やニーズに焦点を当てた企画を検討することも、今後の地域活動の広がりにつながるのではないかと感じました。
例えば、地域住民の生活の中での困りごとや不安、誰かに相談したいことなどに目を向け、地域全体でそれらを共有しながら「一緒に考えていこう」「助け合っていこう」という機運をつくっていくような企画も検討してみていただければと思います。

・イベントの実施回数が多いことから、各事業でのアンケート実施を徹底することも有効だと思います。スマートフォンで回答できるように QR コード等を活用すると、配布・回収・集計が比較的スムーズに行えます。アンケートでは、「地域への関心度」「地域活動への参加意向」「日常生活の中で感じている困りごと」「どのような形であれば地域活動に関わりたいか」といった内容を聞くことで、地域の声を集めることができ、次年度の事業計画を検討する際の参考にもなるのではないかと思います。

・イベントや活動の案内について、もし発信に課題を感じている場合は、実際に参加された方の声や、活動に関わっている方のコメントなどを紹介する形にすることで、参加のイメージが伝わりやすくなることもあります。必要に応じて、活動紹介のパンフレットや案内資料を作成することも一つの方法かと思います。その際、資料作成や広報を担う小さなチームをつくり、役割を分担して任せていくことも、地域活動の担い手を増やしていくうえで有効な取り組みになるのではないでしょうか。